

Tdapワクチン

(破傷風・ジフテリア・百日咳)

知っておきたいこと

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See www.immunize.org/vis
多くのワクチン情報文書がスペイン語その他の言語で準備されています。
www.immunize.org/visをご覧ください。

1 なぜワクチン接種が必要ですか？

破傷風・破傷風・百日咳はとても深刻な病気です。Tdapワクチンを接種することでこれらの病気が予防できます。また、妊婦がTdapワクチンを接種することで、新生児の百日咳感染を防ぐことができます。

破傷風（開口障害）は現在の米国では珍しい病気です。感染すると、筋肉がこわばって体全体が痛みます。

- また、あごが動かなくなって、口を開けたり飲み込んだりできなくなったり、呼吸困難になる場合もあります。破傷風感染者は、最善の治療を受けても約10人中1人が死亡します。

ジフテリアも、現在の米国では珍しくなりました。ジフテリアに感染すると、喉の奥に厚い膜ができます。

- 呼吸困難・心不全・麻痺に進展したり、死に至る場合もあります。

百日咳は激しい咳発作が続き、呼吸困難・嘔吐・睡眠障害の原因となります。

- また体重減少・失禁・肋骨骨折などに進展する場合があります。百日咳に感染すると、青年では多くて100人中2人、成人では100人中5人が入院したり、肺炎など合併症にかかったり、死に至ったりします。

これらの病気は細菌により感染します。ジフテリアと百日咳は、咳・くしゃみなどの分泌物を介して人から人へ感染します。破傷風菌は切り傷・擦り傷・外傷から体内に侵入します。

ワクチン導入前の米国では、毎年20万件のジフテリア、20万件の百日咳、何百万もの破傷風感染が報告されていました。予防接種の導入後、破傷風とジフテリアの感染例報告数は約99%減少し、百日咳の感染例報告は約80%減少しました。

2 Tdapワクチン

Tdapワクチン接種により、青年・成人の破傷風・ジフテリア・百日咳の感染を予防することができます。Tdapワクチンは、11歳か12歳で1回接種が行われます。Tdapワクチン接種をこのタイミングで行っていない場合、早急に接種すべきです。

医療従事者や生後12カ月未満の乳児と密接な接触を持つ機会がある場合には、特にTdapワクチン接

種が重要です。

女性は妊娠する度にTdapワクチン接種を受け、新生児の百日咳感染を予防すべきです。乳児が百日咳に感染した場合、重大で命を脅かす合併症にかかるリスクが最も高くなっています。

Tdという別のワクチンは、破傷風・ジフテリアを予防することができますが、百日咳は予防できません。Tdワクチンは10年ごとに促進接種を行わなければなりません。今までに一度もTdapワクチンを受けたことがない場合は、Tdapワクチンを促進接種として行われる場合があります。深い切傷や重い火傷を負った場合には、破傷風感染を防ぐためTdapワクチンの接種を行う場合があります。

詳しくは、医師または予防接種担当者にお尋ねください。

Tdapワクチンを他のワクチンと同時に接種しても問題はありませぬ。

3 ワクチン接種を避けなければならない場合

- 今までに破傷風・ジフテリア・百日咳を含むワクチン接種後に、生死に関わるアレルギー反応が見られた場合、またはTdapワクチンの成分に強いアレルギー反応がある場合、Tdapワクチンを接種してはいけません。何らかの強いアレルギーがある場合は、医師にお伝えください。
- 小児用量DTP・DTaPワクチン、または前回のTdapワクチン接種後7日以内に昏睡に陥ったり長いけいれんが繰り返し起こった場合、その原因がワクチン以外であると判明されない限り、Tdapワクチンの接種をしてはいけません。この場合でもTdワクチンの予防接種はできます。
- 以下に当てはまる場合、医師にお伝えください：
 - てんかんやその他神経系の問題がある場合、
 - 今までにジフテリア・破傷風・百日咳が含まれたワクチン接種後に 激痛や腫れが見られた場合、
 - 今までにギラン・バレー症候群（GBS）にかかったことがある場合、
 - 接種当日、気分が優れない場合。



4 リスク

薬の副作用と同様に、予防接種にも副反応が見られる場合があります。たいていの場合症状は軽く、自然に治ります。深刻な反応が出る場合もありますが、まれです。

ほとんどの場合、Tdapワクチン接種で問題を引き起こすことはありません。

Tdapワクチン接種後にみられる軽度の問題 (日常生活に支障がなかった例)

- 接種部分の痛み（青年の場合約4人中3人、成人の場合約3人中2人）
- 接種部分の赤みや腫れ（約5人中1人）
- 100.4°F以上の軽い熱（青年の場合多くて約25人中1人、成人の場合多くて約100人中1人）
- 頭痛（約10人中3 - 4人）
- 疲労感（約3-4人中1人）
- 吐き気・嘔吐・下痢・腹痛（青年の場合多くて4人中1人、成人の場合多くて10人中1人）
- 悪寒・関節の痛み（約10人中1人）
- 身体の痛み（約3-4人中1人）
- 発疹・腺の腫れ（まれ）

Tdapワクチン接種後にみられる中程度の問題 (日常生活に支障があるが、医師の受診はなかった例)

- 接種部分の痛み（多くて5-6人中1人）
- 接種部分の赤み・腫れ（青年の場合多くて約16人中1人、成人の場合多くて約12人中1人）
- 102°Fを超える熱（青年の場合約100人中1人、成人の場合約250人中1人）
- 頭痛（青年の場合約7人中1人、成人の場合約10人中1人）
- 吐き気・嘔吐・下痢・腹痛（多くて100人中1-3人）
- 接種した腕全体の腫れ（多くて約500人中1人）

Tdapワクチン接種後にみられる重度の問題 (日常の行動が取れない；医師の診察が必要であった例)

- 接種部分の腫れ・激痛・出血および／または赤み（まれ）。

ワクチン予防接種後に想定される問題：

- 予防接種などの医療処置を受けた場合、気を失う場合があります。15分程度座る、または横になることで失神を避け、転倒してけがをすることが防げます。目がくらんだり、視野に変化があったり、耳鳴りがする場合は医師に知らせてください。
- 接種後に肩に激痛があったり、接種した方の腕が動かしにくくなる場合があります。これらが見られる場合は非常に稀です。
- どのような薬も強いアレルギー反応を引き起こす可能性があります。このような反応は大変まれで、100万人中1人以下と推定されており、ワクチン接種後数分-数時間で症状が発生します。

他の薬と同様、ワクチン接種が深刻なけがや死亡
DCH-1281J AUTH: P. H. S., Act 42, Sect. 2126.

の原因となる可能性は非常に低くなっています。
ワクチンの安全性確認は常に行われています。詳しくは以下をご覧ください：
www.cdc.gov/vaccinesafety/

5 重度の問題があった場合には？

どのようなことに注意せねばなりませんか？

- 強いアレルギー反応・高熱・行動の変化などがなければ注意して観察してください。
- 強いアレルギー反応の症状としては、蕁麻疹・顔面と喉の腫れ・呼吸困難・心拍増加・めまい・虚弱などがあげられます。これらの症状は、接種後通常数分-数時間後に現れます。

何をすべきですか？

- 強いアレルギー反応その他の緊急事態と考えられる場合には、救急車(9-1-1)を呼ぶか最寄りの病院で受診してください。それ以外の場合は、主治医に連絡をしてください。
- その後、アレルギー反応をワクチン有害事象例報告データベース (VAERS) へ報告する必要があります。医師が報告する場合がありますが、VAERSのウェブサイトwww.vaers.hhs.govで、または電話1-800-822-7967での自己報告も可能です。

VAERSでは医療に関する診断は行いません。

6 全米ワクチン被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム (VICP) は、特定のワクチンで被害を受けた人々を救済するために設けられた連邦政府のプログラムです。

ワクチン接種による被害の疑いがある場合、電話1-800-338-2382またはVICPのウェブサイトwww.hrsa.gov/vaccinecompensationでプログラム内容を確認し、補償請求を提出することができます。補償請求には提出期限があります。

7 より詳しい情報は？

- 医師にお尋ねください。ワクチン添付文書やその他の情報源について助言を受けることができます。
- お住まいの地域か州の保健局に連絡ください。
- 疾病対策センター (CDC) にご連絡ください：
 - 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) まで電話か、
 - CDCのウェブサイトwww.cdc.gov/vaccinesをご覧ください

Vaccine Information Statement - Japanese
Tdap Vaccine

2/24/2015

Office Use
Only



42 U.S.C. § 300aa-26
Translation provided by the Oregon Health Authority